

Utility Model Laid-Open Publication No. 07-027308

Laid-Open Publication Date: May 23, 1995

Application No. 05-062998

Filing Date: October 29, 1993

Applicant: DAIYU Corporation

[TITLE OF THE INVENTION] Shoe

[ABSTRACT]

[Object]

To employ a sheet which is deformable into any shape when heated at relatively low temperatures and capable of maintaining the deformed posture after being cooled, so as to obtain a sole insert conformable to a foot contour.

[Feature]

A shoe comprises a sole insert member A additionally serving as an inner sole, and a shoe body B designed to ensure original foot-receiving spatial dimensions after the sole insert member A is inserted and embedded therein. The sole insert member A includes a flexible sheet 3 formed by kneading chipped cork pieces 1 and olefin resin 2 dissolved by a solvent, and a shaping member 4 made of cloth, nonwoven, artificial or synthetic leather or natural leather and attached onto a top or bottom surface of the sheet 3.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-27308

(43) 公開日 平成 7 年 (1995) 5 月 23 日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 3 B 17/00	A			
	C			
13/38	A			

審査請求 有 請求項の数 2 F D (全 2 頁)

(21) 出願番号 実願平5-62998

(22) 出願日 平成 5 年 (1993) 10 月 29 日

(71) 出願人 000149620

株式会社大裕商事

東京都台東区浅草 7 丁目 7 番 3 号

(72) 考案者 津田 和典

東京都台東区浅草 7 丁目 7 番 3 号 株式会
社大裕商事内

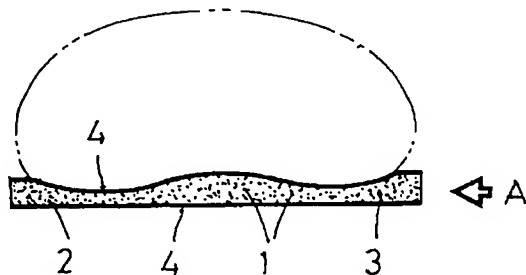
(74) 代理人 弁理士 佐野 義雄

(54) 【考案の名称】 靴

(57) 【要約】

【目的】 低温で任意形状に変形し、冷却によりその変形姿勢を維持するシートを利用し、足形にフィットする中敷を得ることにある。

【構成】 チップ状のコルク 1 を溶剤で溶かしたオリフィン系合成樹脂 2 とを混練して形成した柔軟性を有するシート 3 の上面または下面に、布、不織布、人工合成皮革、天然皮革などの整形材 4 を貼着した中底を兼ねた中敷部材 A と、該中敷部材 A の挿入敷設により本来の足入れ空間寸法が確保しうるようにした靴本体 B とからなることを特徴とする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 チップ状のコルクを溶剤で溶かしたオリフィン系合成樹脂とを混練して形成した柔軟性を有するシートの上面または下面に、布、不織布、人工合成皮革、天然皮革などの整形材を貼着した中底を兼ねた中敷部材と、該中敷部材の挿入敷設により本来の足入れ寸法が確保しうるようにした靴本体とからなることを特徴とする靴。

【請求項2】 前記シートに、オリフィン系合成樹脂に抗菌剤、防カビ剤、消臭剤などを混入した請求項1記載の靴。

【図面の簡単な説明】

【図1】 シートから靴用中敷を打ち抜き形成する説明図である。

2

* 【図2】 シートの断面図である。

【図3】 中敷に足形を形成する手段を示す説明図である。

【図4】 靴に中敷を挿入した状態の断面図である。

【符号の説明】

A 中敷部材

B 皮革靴

1 コルク

2 オリフィン系合成樹脂

3 シート

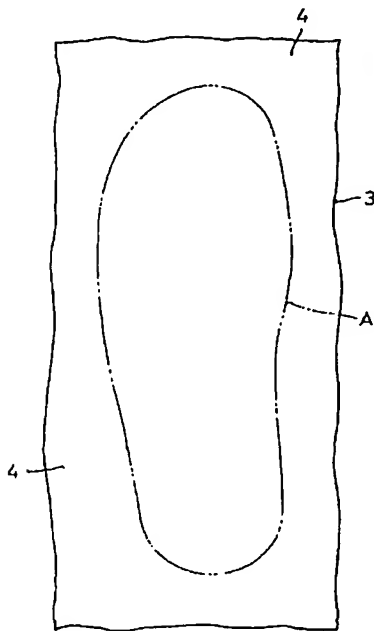
4 整形材

5 本底

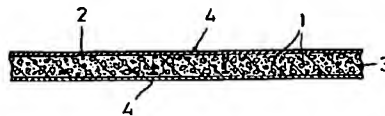
6 中底

* 7 製甲体

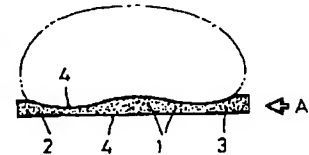
【図1】



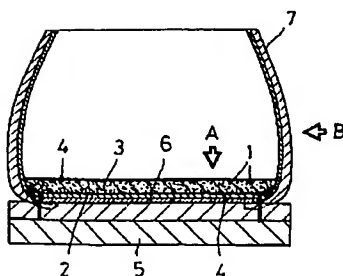
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、低温で任意形状に変形し、冷却によりその変形姿勢が維持しうる中敷部材をもつ靴に関する。

【0002】**【考案の技術的背景】**

従来、一般に靴用中敷は靴のサイズ調整や消臭、滅菌を主たる目的としたものが多い。従って薄くて比較的硬質材料からなるものであることから、足のフィット性を阻害して違和感を与え歩行に悪い影響を及ぼすという不都合がある。また、靴本体を構成する中底を改良して足の踏まずにフィットする凸部を形成したものが市販の靴に見られるが、この凸部は履用者の足に必ずしもフィットするものでなく、まして、履用者の足裏の凹凸形状に完全にフィットする中敷や中底は殆んど存在していないのが実情である。

【0003】

本考案の目的は、低温で任意形状に変形し、冷却によりその変形姿勢を維持するシートを利用し、足形にフィットする中底に代る中敷をもつ靴を提供することにある。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

従来技術の課題を解決する本考案の構成は、チップ状のコルクを溶剤で溶かしたオリフィン系合成樹脂とを混練して形成した柔軟性を有するシートの上面または下面に、布、不織布、人工合成皮革、天然皮革などの整形材を貼着した中底を兼ねた中敷部材と、該中敷部材の挿入敷設により本来の足入れ寸法が確保しうるようにした靴本体とからなること、および、前記シートに、オリフィン系合成樹脂に抗菌剤、防カビ剤、消臭剤などを混入したものである。

【0005】**【実施例】**

次に、図面について本考案実施例の詳細を説明する。

図1はシートから靴用中敷を打ち抜き形成する説明図、図2はシートの断面図、図3は中敷に足形を形成する手段を示す説明図、図4は靴に中敷を挿入敷設した状態の断面図である。

【0006】

チップ状のコルク1を溶剤で溶かしたオリフィン系合成樹脂2とを混練して柔軟性を有する均一厚のシート3を形成し、このシート3を中底を兼ねた中敷部材Aに打ち抜き形成したものである。ちなみに、前記チップ状のコルク1、溶剤、オリフィン系合成樹脂2の重量比は、コルク40～50%に対してオリフィン系合成樹脂60～50%で、溶剤は10%程度である。この重量比は自由に変えることができる。また、前記本考案のシート3の厚みを比較的肉厚、例えば7mm程度に形成する。そして、図1で示すように、シート3を足形形状に打ち抜き形成した前記中敷部材Aの表面または裏面には、整形順応性や断熱性をもつ薄い布、人工合成皮革、天然皮革などの整形材4を貼着するとともに、前記オリフィン系合成樹脂2に持続性を有する抗菌剤、防カビ剤、消臭剤などを混入し、中敷部材Aに持続的な抗菌効果、防カビ効果や消臭効果を付与するものである。

図4は、本考案シート3より得た前記中敷部材Aを挿入敷設した皮革靴Bの断面を示しており、5は本底、6は中底、7は製甲体である。前記中底6の上面にこれと略同形同大の中敷部材Aを敷設することにより、本来の靴本体の足入れ空間寸法が決まるようにしたものである。つまり、図4は中敷部材Aを使用するのが条件の皮革靴Bを示している。しかしながら、皮革靴Bとは別個に使用する通常の中敷にも適応しうる。

【0007】

【作用の説明】

次に、前記実施例に基いてその作用を説明する。

中敷部材Aを加熱手段、例えば、電子レンジのようなマイクロウエーブ中にて所要時間加熱し、品温が60～80℃に加熱された中敷部材Aを図4のように皮革靴Bにセットし直ちに靴下を着用した足を挿入する。靴の内部において体重がかけられると、中敷部材Aは図3のように足の形にフィットするように変形し、そのまま放置し冷却すると中敷部材Aの変形は固定される。即ち、足形に適応し

た凹凸形状が中敷部材 A に形成され、その凹凸形状は再加熱するまで消えることがない。

【0008】

【考案の効果】

上述のように本考案の構成によれば、次のような効果が得られる。

(a) 本考案のシートによれば、低温（60～80℃）加熱により任意形状に変形し、その変形姿勢をそのまま維持して冷却することによりその変形を固定することができ、特に靴の中敷として利用することにより、足裏の形にフィットした疲労度の少ない履物が提供しうる。

(b) 抗菌剤，防カビ剤，消臭剤などを混入することにより、足の防かび，消臭効果のある中敷が提供しうる。